
経済 TOPICS

No. 237

(2024年11月18日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 生産がやや弱めに推移しているものの、個人消費と輸出が持ち直していることから、全体としては緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、政府による電気・ガス料金支援の再開に伴いエネルギー価格の上昇幅が縮小したことから、前年比プラス幅が縮小している。この間、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の低迷、米国新大統領の政策運営など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産は横這い圏内で推移しているものの、個人消費や設備投資が底堅く推移していることから、全体としても底堅く推移している。この間、労働需給はやや改善している。消費者物価は、サービス価格の粘着質な上昇圧力が続いていることから、前年比プラス幅がやや拡大した。

（参考）物価動向

〈日本〉 生鮮食品を除く食料が上昇しているものの、政府による電気・ガス料金支援の再開に伴いエネルギー価格の上昇幅が縮小したことから、全体としては前年比プラス幅が縮小している。この間、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きは続いている。

〈米国〉 エネルギー価格や食料及びエネルギーを除く商品は鎮静化しているものの、サービス価格の粘着質な上昇圧力が続いていることから、全体としては前年比プラス幅がやや拡大した。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
